

とよおか



農香だより

No.49
2021.

8



写真：食育活動「おいもさん はやくおおきくなあれ」
港認定こども園 さつまいも苗の植え付け体験

- 頑張ってます！農地利用最適化推進活動・・・2P
- 特産農産物の紹介・・・・・・・・・・・・・・3P
- きばっとなる人らあ・・・・・・・・・・・・・・4P
- 新規就農者の紹介・・・・・・・・・・・・・・5P

三江地区 (豊岡地域)



庄境地区の水田



河本推進委員
三江地区

稲の作付はなくなり、水田の活用が難しくなっています。しかし近年、水田の活用が難しくなっています。しかし近年、水田の活用が難しくなっています。しかし近年、水田の活用が難しくなっています。

豊岡地域の三江地区は豊岡市の東部に位置し、10の行政区で構成されています。農地の面積は、おおよそ161ヘクタールあり、多くの住宅や団地なども立地する一方で、水田や鎌谷川、六方川といった円山川に注ぐ自然豊かな景観の残る地域であります。また、旧郷名である「三江郷」の名を今に引き継いでいます。

も保全管理まではなされていた水田に少しずつ遊休農地が見受けられるようになってきました。

一部に耕作者の変更なく農地の所有者が地域を離れたり、農道整備や水利の維持管理への負担、農機具への投資、有害鳥獣への対応、耕作者の高齢化、担い手の不足などの事由により農地の遊休化が発生しつつあると考えられます。

確認された場合は、所有者等に今後の利用を聞き取り、その意向を勘案した利用調整を行うことになりませんが、条件の良い農地であれば利用調整が難しくなっているように感じます。

このような中で期待するのが、集落や地域を超えた広域的な農業の取り組みや個人・法人を問わない新規就農者の参画です。

これは、三江地区だけの問題ではなく豊岡市全域に共通の課題ではないでしょうか。これまで農地を守ってきた先人や次の世代の人たちに対し、農地を保全していくことは今の私たちの責任のひとつであると思うところです。

(推進委員 河本 嘉一)

清滝地区 (日高地域)



西口推進委員
清滝地区



中島農業委員
清滝地区

農産物の特色は、「桜・清流の郷 きよたき」らしく、豊かできれいな水と高原での、米と野菜・果実づくりです。米は、「神鍋米」ブランドが多く、良

清滝地区は、豊岡市の南西部、神鍋山と大岡山の南麓に位置し、稲葉川と太田川・大岡川との流域沿いに、7行政区の430世帯余りで構成されています。地形上の特徴としては、南端の十戸区から北端の太田区まで、直線約5kmで、標高差250mの典型的な中山間地域です。圃場面積は全体で約200ヘクタールの規模です。居住区近くの耕地整理された広い圃場で構成された農地と居住地から離れた狭く昔ながらの棚田で構成された農地があり、遊休農地8・4ヘクタールのほとんどが後者に存在し、これが地区の大きな課題です。

質で美味しい米づくりにこだわり、JAたじま扱いの一般のこしひかり一等米比率45%に対し、「神鍋米」は、令和2年実績86%です。高原野菜・果実として、キャベツ・スイカ・リンゴを多く出荷しています。規模は小さいが特徴的なのが、わさびです。「十戸の清水」は、約13℃の湧き水が、毎秒約700リットル湧き出し、養鱒・わさび栽培・米作りに利用されます。この環境を生かし、33アールの「日本一海抜の低いわさび田」で、60年間わさび栽培が継承され、美味しいと評判です。

このような大切な地域の農地を守るべく、各区なりの施策を打ちながら農地保全されています。地区の農会長会をはじめ、区長会・農地所有者と協力し、遊休農地解消と地区の豊かな自然環境を守って参ります。

(推進委員 西口 覚)



「十戸の清水」による養鱒

昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの特産農産物を皆さんに知ってもらい、地域農業の振興に役立ててもらうため、この特集を行っています。今回は「アイガモ米」と「ブルーベリー」です。

アイガモ米 池上合鴨農園 合鴨農法代表 池上敏紀さん（豊岡市下宮）

「コウノトリと共に育つ農業」
「環境にやさしい農法」として合鴨農法に取り組んで25年目を迎えました。

田植え後、1、2週間もすると田んぼの中はミジンコ、ホウネンエビ、貝エビ、カブトエビなどが大発生し賑やかになります。その後、アイガモの雛を田んぼに10アールに15羽から20羽放ち、雑草、水生生物、害虫、餌のくず米を食べて育ちます。



田んぼに放たれたアイガモ



大阪からやってきたアイガモの雛

なり、アイガモと稲は一緒に大きく育ちます。雑草も害虫も大切な資源となるのです。

今の稲作は、機械に頼り、栽培管理を人力に頼り複雑で多くの労働力が必要です。合鴨農法は、畜産と稲作という多様性と、

いっさいアイガモに任せる省力化を兼ねさせた技術体系です。また、「育ったアイガモを食べるなんて」という意見があります。が、生きているものは生きていくものを食べなければなりません。私たちもこの命の連鎖の中で生きています。

問題は、日ごろ食べている物かわいそうと思わない、市場経済、大量消費、分業社会の中で「命の連鎖」が認識できなくなってきたことです。

合鴨農法の課題は合鴨農法者の高齢化、労働力のいる網張作業が若い人には受け入れられないところと、

放し飼いのため鳥獣被害は拡大し、特にカラス、タカの被害が多く、いろいろなテグスが防鳥に効くと試しましたが、解決には至らず、最終的に、防鳥網にたどり着きました。

沢山の手間と労力がかかる農法ですが、田んぼからいただく自然情報は、未整理の情報で、目や耳だけではなくからだ全体で受ける情報が多いです。だから農業は面白いんです。

田んぼは宝物（田から物）です。
（農業委員 宮岡 正則）

ブルーベリー 片岡ふれあい農園 （出石町片岡）

出石町片岡ふれあい農園は、ラベンダーと小果樹（ブルーベリー、ユスラウメ、ヤマモモ等）の観光農園として、平成5年にオープンしました。

当初は、ラベンダーを中心に地区ぐるみでイベントを行い、多くの観光客が訪れました。しかし土地に合わなかったのか、ラベンダーは病気で枯れてしまいました。そこで小果樹の中から、ブルーベリーを主力に農園を運営することになり、現在に至っています。

ブルーベリーの品種は、ラビットアイ系が収穫期はやや遅くなるものの作りやすいので、主力品種になっています。現在約700本が植えられています。オープンして約28年経過しますが、コロナ禍で厳しい面もあるものの、何とか農園を維持する程度の売り上げを保っています。現在の商品はジャム、ソース、ピューレが主ですが、うどん、そばの委託加工もしています。生のブルーベリーもあります。ひょうご安心ブランド、



ブルーベリーの実



生育は順調です

（農業委員 大原 博幸）

ひょうご認証食品、コウノトリの舞の認証を受け、たじまんま、コウノトリ本舗、出石観光センター、神鍋道の駅等で販売しています。希望があればもぎ取りもできますが、事前に予約が必要です。

代表の中嶋さんによりまずと、農園は傾斜地で、獣害もあり、7人いるメンバーも管理が大変で、高齢化対策と担い手の確保が課題とのことです。しかし加工した商品は、ブランド品として売れます。安定した生産が確保できれば十分採算は取れるので、頑張っ続けたいと言われています。

親子で認定農業者 農業に夢を持って (水稲・野菜栽培)

田中 政明さん(71歳)、
田中 吉章さん(42歳) (日高町栃本)

田中さん親子は揃って認定農業者で、現在は、“日高農園たなか”を息子さんが代表として経営されています。

農業を始められたのは、会社員をしていた40才の時に足を痛めたのがきっかけとなったそうです。当初5ヘクタールから始まり現在は16ヘクタールを作付されていてトラクター、田植え機、コンバイン、乾燥機等も大小複数台所有されています。春、秋の農繁期にはパートさんをお願いし、農閑期には西瓜、葡萄を作付されているそうです。

今後の課題と悩みは、田圃の面積が小さいため中々水が来ない、作付地域がバラバラでまとまらないので手がかかる、農薬や肥料代が高いこと、もっと作付面積を増やしたいが待っていても中々増やせないこと、コロナ禍の中で米の価格が下がり先が見えないこと等、色々不安要素は多くありますが親子で頑張っていきますとのことでした。

農業へのこだわりは、有機肥料を使用していることですが、今後も単価を下げる努力を続け、ブランド米を目指して精進していきたいと今後の抱負を語っておられました。今後も夢をもって頑張ってください。(農業委員 平野 薫)



田中さん親子

豊岡農業スクール 卒業生

藤原 大樹さん (竹野町二連原)

竹野南地区にお住いの藤原大樹さんは、大阪で歯科技工士をしていたものの、諸事情により平成31年3月にUターンし、農業スクールを経て農業を始めた期待の若手就農者です。春から秋にかけては父親の水稲栽培を手伝いながらキャベツ・ピーマンを栽培し、冬場には椎茸栽培を行っておられます。ピーマン栽培についてはJAのピーマン部会に所属して経験豊かな栽培農家に指導を仰ぎ、椎茸についても栽培農家に実習に行くなど、栽培方法の習得を積極的に行って農業に取り組む姿勢は、地元農業の将来を担える人材として周囲の期待も大きい若者です。

Uターン直前には待望の長女が誕生し、その後、長男にも恵まれて家族4人の大黒柱として毎日野菜作りに励んでおられます。

今年は春からキャベツ2千本・ピーマン9百本を栽培し、秋には菌床椎茸を1千床程度栽培する予定だそうです。

最後に今後の目標などを伺ったところ、「今後は農業従事者の高齢化により耕作困難となる圃場の増加が予想されるため、稲作への取り組みも考えている。」と、非常に頼もしい言葉を聞くことができました。(農業委員 瀧下 康徳)



頼もしい若手農業者です

農林水産省との意見交換を実施 ～みどりの食料システム戦略について～

豊岡市発の事例を紹介しました

農林水産業を取り巻く様々な課題の中、地域の将来も見据えた持続可能な食料供給システムの構築が急務となっています。国内の食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるため、国では「みどりの食料システム戦略」の検討が進められています。その中で農山漁村発の取り組みの事例として、豊岡市のコウノトリと共生する地域づくり【農山漁村×生物多様性】が取り上げられています。4月8日に農林水産省と豊岡会場をオンラインで繋ぎ実施された意見交換会では、ひぼこの大地を守る会 吉田準一会長とともに、農業委員会 大原博幸会長が参加し、市の取り組みについて活発な議論を行いました。

環境と調和した食料生産、農産物のブランド化と観光業等との結びつけなど、持続的な地域の産業基盤の構築に向け、今後の取り組みが期待されます。



オンラインでの意見交換の様子

新規就農者の紹介



地域おこし協力隊

武田 旭 さん 35歳 男性 (出石町寺坂)

●協力隊任期

2020年11月1日～2023年10月30日

●プロフィール

京都市からUターン。実家が所有する約50アールの農地を中心に独立自営の新規就農を目指す。野菜栽培にも関心あり。

「珍しいもので特徴ある農業を目指したい」

武田さんは出石町寺坂で両親と住んでいます。学校を卒業後、約二十年間京都で野外活動センターや飲食店等で働いていました。いつかは豊岡に帰ろうと考えていましたが、市役所と相談した結果、地域おこし協力隊という制度があることを知り応募しました。地域おこし協力隊はUターン、Jターン等地域外の人材により、地域協力活動を行ってもらい、定住・定着をすることで、地域での生活や社会に貢献していくことを目的としています。令和二年度は農業関係でも多数の応募があり、三人が活動されています。地域おこし協力隊員が一堂に会する交流会もあり、各隊員が情報交換されています。

武田さんは現在グリーンいすずで活動していますが、今後一般社団法人但馬地域経済活性化機構を構成している(株)Teams、中谷農事組合法人、(株)夢大地、(有)あしたで、農業技術の習得をめざして活動する予定です。三年間(2023年まで)の活動が終了したら、自宅のある出石町寺坂を中心に農業経営を始めたいと考えています。稲作や野菜作りに関心があり、どんな農業をやるのか、京都で働いていた経験を活かし、珍しいもので、特徴のある農業を地域おこし協力隊の活動を通じて考えたいそうです。今後は、地域の担い手として、農業のみならず幅広い分野での活躍を期待します。

(農業委員 大原 博幸)

ご不用の古米、くず米を無料引受いたします。

米粉にして牛の飼料として活用しています。

牧場では持続可能で自然と調和した畜産を目指しています。

※カビや虫がついたものは不可となります。

詳しくは下記へ問い合わせください。

電話 0796-29-0808 担当 わただ



こうのとり風土セントラルファーム
KOUNOTORI-FUDO CENTRAL-FARM

節税対策しながら年金積立！ 老後の備えは 国民年金+農業者年金

老後生活への
備えは
十分ですか？

ポイント

1

支払った保険料は
全額社会保険料控除の対象！

ポイント

2

運用益は非課税！

ポイント

3

農業経営の状況に応じて
保険料を増額し、節税額をアップ！

加入条件

農業者年金 へは…

**国民年金
第1号
被保険者**

国民年金保険料
納付免除者を除く

**年間60日以上
農業に従事**

60歳未満

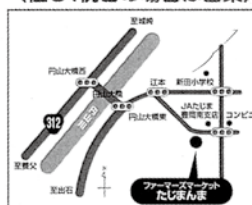
の方なら どなたでも 加入できます。

詳しい内容のお問合せは… **お近くの農業委員会・JAへ!!**

**ファーマーズ マーケット
たじまんま**

豊岡市八社宮490 TEL0796-22-0300
www.ja-tajima.or.jp/tajimanma

定休日：火曜日
(但し、祝日の場合は営業)



おかげさまで
10周年

たじまんま



JAたじま

あなたの地域・地区を担当する

農業委員・**農地利用最適化推進委員**を紹介します。

○「現況が農地」または「登記地目が農地」の転用・売買等には、農業委員会や県知事の許可が必要です。
ご相談は農業委員まで。

○農地や農業、新規就農などのご相談は、地区の農地利用最適化推進委員まで。

《問合せ》農業委員会事務局 ☎ 21-9021

地域名	担当地区名	農業委員		農地利用最適化推進委員	
		氏名	住所	氏名	住所
豊岡	八条・豊岡地区	西沢 泰裕	八社宮	中田 正夫	上佐野
	中筋地区			池畑 一己	加陽
	三江地区			河本 嘉一	六地藏
	田鶴野地区	村田 憲夫	野上	西 登己夫	船町
	五荘地区	森田 強	上陰	原田 益男	栃江
	奈佐地区			石原 章二	内町
	新田地区	栗原 安信	三宅	松岡 正人	河谷
	神美地区	平峰 英子		松岡 秀明	上鉢山
	港地区	高尾 利美	気比	絹本 實	気比
城崎	全地区	石橋 重利	城崎町来日	岩本 照雄	城崎町上山
竹野	竹野南地区	瀧下 康德	竹野町小城	井垣 和芳	竹野町小丸
	中竹野・竹野地区			山根 秀次	竹野町羽入
日高	国府地区	平野 薫	日高町中	三木 耕作	日高町池上
	八代地区			中村 勝美	日高町八代
	日高地区	宮岡 正則	日高町浅倉	安岡 平夫	日高町久田谷
	三方地区	和田 敏明	日高町庄境	柴田 公男	日高町栗山
	清滝地区	中島 覚	日高町石井	西口 覚	日高町頃垣
	西気地区	原 清美	日高町万劫	和藤 達也	日高町栗栖野
出石	弘道・福住・寺坂地区	井谷 勝彦	出石町桐野	川見 正康	出石町上野
	菅谷・室見台地区			杉本 武己	出石町細見
	小坂地区	大原 博幸	出石町田多地	川崎 重雄	出石町三木
	小野地区	仲川 弘之	出石町上村	中務 喜紹	出石町口小野
但東	資母地区	大谷 均	但東町畑	松本 雅浩	但東町口藤
	合橋地区			千原 武敏	但東町西谷
	高橋地区	上坂 定	但東町平田	桑田 均	但東町平田

◆女性活躍担当（女性農業者相談窓口等）… 原 清美 農業委員、平峰 英子 農業委員

豊岡市農業委員会

検索



表紙について 「おいもさん はやくおおきくなあれ！」

5月10日。気がかりだったお天気も、晴天が広がる「五月晴れ」。今日は、港認定こども園の子どもたちがとっても楽しみにしていたさつまいも苗の植え付けの日。くじら組（5歳児）といるか組（4歳児）の25名が参加しました。

農業委員会の5名とこども園の先生方は、この日朝早くから畑の草を抜き、耕運機で耕して畝を作り、マルチを張って子どもたちの到着を待つことにしました。

農地利用最適化推進委員の岩本さんの指導のもと、子どもたちは小さな手に1本ずつ、柔らかくて長い茎が折れないように大事そうに持って、支柱であけたマルチの穴にそおと植え付けていきました。

「野菜が水を求めて根を伸ばしていく力を信じて、水はあまりやらないで育てましょう」という岩本さんのお話に、ジョウロに水を一杯入れて運んできた子どもたちはびっくりしていました。

「10月には芋ほりができるかな」「早く食べたいなあ」「さつまいもカレーがいい」「焼き芋！」と話が盛り上がり、すでに楽しい芋ほりで頭の中はいっぱいになっているようでした。農業委員の石橋さんの「さつまいもはツルも美味しいよ」との言葉に、秋の収穫の楽しみがさらに増えたようです。

秋の収穫まで約4か月。昨年のようなシカの食害に見舞われることなく、さつまいもが大きく育つことを願いながら見守りたいと思います。
(農業委員 高尾 利美)



さつまいものお話を聞いてます



あきになるのがたのしみ！

職員人事異動

令和3年4月1日付人事異動により事務局職員の異動がありました。

豊岡市農業委員会事務局 次長

前任 上阪 善晴 お世話になりました。

後任 兼井 伸二 よろしくお願ひします。

全国農業新聞を購読してみませんか！



農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円
(送料、消費税込)

*お申し込みは
農業委員会事務局または、地元の農業委員・推進委員まで

編集後記

1年以上続く「新型コロナウイルス感染症」によって私たちの日常は一変しました。

何度も繰り返される飲食店や宿泊施設の休業や時短営業による、お米や葉物野菜などの市場価格低下は生産者を直撃し、「コロナ」による経済への影響は、農業者にとっても深刻です。

一方で、自宅を過ごす生活が長引き、「プランター栽培」や、貸農園に挑戦する人が増えていると言われています。「3密」とは縁のない農漁村の生活に、「豊かな自然環境で生活する」喜びを感じる人も私たちのまわりに多くおられます。

ここ数年、全国的にも注目を浴びることが多い豊岡に興味を持ち、移住希望者や「地域おこし協力隊」の応募者が年々増えているようです。

「コロナ禍からの一刻も早い脱却を願ひながら、これからも豊岡の農業を元気づけ、農業に関心を持つ人々たちを応援し続けたいと思ひます。」

(編集委員長 高尾 利美)



農委だより第49号は私たちが担当しました。

後列左から 瀧下委員、大原会長、宮岡委員

前列左から 高尾委員、平野委員